

鳥の星座

水野千里

本年は癸酉の歳で、酉は鶏であるが、星座に鶏といふのはない、しかし鳥に関する星座は九つある。

1. 烏星座 CORVUS.

一聲を 年の初朝 めでぬるは 天津み空を わたる鳥か (平松閑月)

この星座は愛らしい星座である、乙女星座の南西に隣り $\beta, \gamma, \delta, \epsilon$ の四星は何れも三等星で、 α, η の二星は四等星である。

三等星の四つは、二十八宿中の最後の軫宿であつて、 γ は軫宿第一星、 ϵ は第二星、 δ は第三星、 β は第四星である。

日夜天車轉牽來二十七星重輪而貳轄軫宿駕=飛輪- (池田伯欣)

2. 孔雀星座 PAVO.

巨嘴鳥や 風鳥の座に 護られていと派手やかに 孔雀舞ふらむ(平松閑月)

この星座の概略位置は赤経19時10分、赤緯南65度であるから、内地からは観られない。私は東支那海を航して臺灣に行つたとき、船上からこれを眺めて、新しい友人を得た心地がした。 α は二等星で最も北に位し。 β は三等星、 $\gamma, \delta, \epsilon, \zeta, \eta$ の五星は四等星である。支那名孔雀は $\eta, \pi, \nu, \lambda, \kappa, \delta, \beta, \zeta, \epsilon, \gamma, \alpha$ の十一星から成つて居る。

3. 鳳凰星座 PHOENIX

鳳凰の 御空をゆたに 舞ふなべに 鶴も千代よぶ 聲をそふらむ(平松閑月)

この星座も南天のもので主星 α は二等星、 β, γ は三等星、 $\delta, \epsilon, \zeta, \eta, \kappa$ の五星は四等星である。

4. 鶴星座 GRUS

秋の天の 南に低き 鶴星座 今少し首 延ばせたまかな (星々)

この星座は鳳凰星座の西に隣り、 α, β の二星は二等星で、鳳凰の α と殆んど一直線となり、南の地平線に近く、秋の宵に現はれる星座である。 γ は三等星、 $\delta^1, \delta^2, \epsilon, \zeta, \iota, \lambda$ の六星は何れも四等星である。

5. 巨嘴鳥星座 TUCANA.

鶴の足 鳳凰の尾の 長きにも なほまさりぬる 巨嘴鳥のはし (平松閑月)

この星座は内地からは観られない。主星 α は三等星で、鳥喙第一星である、鳥喙は七星から成り、第二星 δ は四等星、第三星 γ 、第四星 β は何れも四等星、第五星 ρ は五等星、第六星 ζ 、第七星 ε の二星は四等星である。 γ は四等星で儼第五星である。

6. 風鳥星座 APUS

足なくも 廣きみそらを 風鳥の 風のまにまに 飛び廻らむ (平松閑月)

この星座は南極に近く α , β , γ は三等星である。支那名「異雀」は八分儀星座の δ 星とこの星座の八星とから成つて居る。

7. 鳩星座 COLUMBA.

箱船を つくりシノアの その昔 むかしむかしの 鳩ぞこの鳩 (大庭濱子)

α , β は三等星, γ , δ , ε , η , κ は四等星である。

以上七星座は、何れも南天にあるが、鷲と白鳥との二星座は、北天に位して居る。

8. 鷲星座 AQUILA.

牽牛は 鷲座の主 七夕の 彦星として いとも名高し (大庭濱子)

河鼓は三星で、第一星 β は四等星、第二星 α (Altair) は一等星、所謂牽牛星、第三星 γ は三等星である。

天桴は四星で、第一星 θ は三等星、第二星 62 番は六等星、第三星 58 番は六等星、第四星 η は四等星である。

右旗は九星で、第一星 μ は五等星、第二星 σ は五等星、第三星 δ は三等星、第四星 ν は五等星、第五星 ι は四等星、第六星 (無名星) と第七星 42 番とは何れも六等星、第八星 κ は五等星、第九星 57 番は五等星である。

ζ は三等星, ε は四等星である。

9. 白鳥星座 CYGNUS

私は各星座に就いて次の様な順で書いて見たいと思つて居る。その一例として白鳥星座を挙げよう。

- a. 學名 Cygnus
- b. 學名の物主格 Cygni
- c. 略符 Cyg
- d. 命名者 Ptolemy の恒星目録にあるもの
- e. 概略位置 赤經 $20^{\text{h}} 30^{\text{m}}$ 赤緯 $+43^{\circ}$
- f. 午後八時南中日 九月二十五日
- g. 隣星座 北—セフェウス, 東—蝸蝸, 神馬ペガス, 南—狐, 西—琴, 龍.
- h. 星の等級 一等星— α
 二等星— γ
 三等星— $\beta, \delta, \epsilon, \zeta$
 四等星— $\eta, \iota, \kappa, \lambda, \mu, \nu, \xi, \theta^1, \rho, \sigma, \tau, \upsilon, \phi, \chi^1, \chi^2, \psi, \omega^1, \omega^2, \omega^3$
 五等星— $\pi^1, \pi^2, \varphi, \chi^1, \chi^2, \psi, \omega^1, \omega^2, \omega^3$
- i. 星の特別名 α = Deneb, Deneb el Adige, Arided
 β = Albireo
 γ = Sadir ϵ = Gienah
 π^1 = Azelfafage
- j. 星の支那名 奚仲四星, 一 κ , 二 ι , 三 θ , 四 ϵ .
 白四星, 一 μ . 他は神馬ペガス星座にある.
 騰蛇二十二星
 車府七星, 四 ρ , 六 ξ ,
 天津九星, 一 γ , 二 δ , 三 θ , 四 α , 五 λ , 六 τ , 七 υ , 八 ζ , 九 ϵ .
- k. 主なる星 α は, 白鳥座デネブで赤經20時38分, 赤緯北44度55分にある, A型の1.3等である.

β 星は, 赤經19時28分, 赤緯北28度にある美しい二重星で, 色は黄に赤味がいつて居て, 距離は34秒である.

μ 星は赤經21時41分, 赤緯北28度にある連星で, 四等と五等とで, その距離は2秒30である.

61番星は, (總べて恒星の距離はコペルンクス以來, 天文學者が常に頭を悩まして居た問題であるが), 獨逸の天文學者ベツセルはこの星の固有運動の大なることに注意し, これは屹度近いところにある恒星だと考へて, ヘリオメ

「ト」といふ器械を作り、9.1光年にあることを知つたのである。これと前後して、露國のストルベは、琴座 α 星の距離を、喜望峯天文臺のヘンダソンはケンタウルス座 α 星の距離を算定した。この61番星は六等星の二個から成立して居るところの重星で、多分連星であらうとのことだ。

有名な變光星が4個あつて、SU星、 γ 星、X星、W星がこれである。

その要素は、次の通りである。

星名	赤經	赤緯	等級	週期	種類	發見者
SU星	19時40分	北29度1分	6.2—7.0	3.844日	短期	ミュラーケンブ
γ 星	19°47′	32°40′	4.5—13.5	406.02	長期	キルヒ
X星	20°40′	35°14′	6.0—7.0	16.3855	短期	チャンドラー
W星	21°32′	44°56′	5.0—6.7	131.5	未定	ゴリア

1. **新星** この星座には、新星が三度現はれた。第一は1600年に發見された、ジャンソン星で ρ 星のことであらう。第二は1876年十二月二十四日に現はれたもので、其の等級は3.5だつたが、出現後1ケ年経過する中に、第十等以下に衰へ、其のスペクトルはフオルゲル其他の天文學者が調べたのによると、遊星狀星霧のとよく似て居たさうだ。第三は1920年八月二十日デニングが發見したもので、四日後に極大1.7に達し、それから大急ぎで衰へ出したのであるが、京都帝國大學の山本博士はこの新星について熱心な觀測をせられ、論文を發表せられたが、其の要點は次の通りである。これによつて新星研究の仕方の大要がわかるであらう。

“白鳥座第三新星發見の報知が、京都大學に達して以來、絶えず其の光度の觀測を行つた。其等の中で1920年中に五十七回の觀測があるが、それを紙上に書き、尙ほ之れと一所に國內及び外國の觀測者達が行つた、觀測の報告の中で手に入つたものを加へた。是等は皆既に公に發表されたものが、筆者に送られた私信である。是等全部に通じて一つの良ささうな光度曲線を書いたが、これで見ると星は始めの頃には、光輝の増し方が比較的に緩慢である。そして八月二十四日の早い頃に最大光輝1.7等に迄達した。其の後光りは十月半まで意外な速さで下降した。それから八等と九等との間に暫らく居た。曲線には週期凡そ七日の短週期變光が見える。しかし普通の場合のやうに上つ

たり、下つたりはしないで、停止と下降とが交互に見えて居る。初めての停止は八月二十九日であつた。後になつて光がよほど一定になつた頃にも、やはり同様な週期の變光が少しは見える様である。十一月の中頃、一時九等半まで下つた後に急に一等半ばかり上昇したことがある。之れはよく他の新星にも現はれる如き回復と見るべきものにちがひない。八月二十四日から、九月九日迄の間に、18種の望遠鏡で對物プリズムのスペクトルの寫眞を二十二枚撮つた。八月二十四日にはスペクトルはA型で、其の中には水素の吸収線が九つ明かに現はれ、其等の赤色側には軽く輝線が見えて居た。其の他にも暗線があるが其の多くは恐らくは金屬の高熱線であらう、翌日には水素線の赤色側の光輝が頗る發展して、漸次新星獨特型に移ることを立派に仄めかしてゐる。其の後二日間曇られて、同二十八日にはスペクトルは既に美しい代表的の新星型であつた。水素の輝きが寫眞の全體にわたつて幅をきかせてゐる。ヘリウム線や、例の問題の4640帯も見えてゐるが、何れも輝線である。此の日以後は、右の光帯の發達が最も興味多いものである。全く此の星が星霧期へ進化して行くのが見える様である、しかし此の星霧期は吾々の寫眞觀測の終りまでには遂に現はれなかつた。

此の新星の位置は九月二日と三日とに子午儀で觀測された、其の結果は赤經19時55分54.601秒、赤緯北53度20分50.28秒(春分點1900年)''

と報告されたのである。

m. 北亞米利加星霧 星霧の形が北米大陸によく似て居るので、北アメリカ星霧といふので、その外線狀星霧の有名なものが一つある。

n. 重 星 ρ , δ , β , γ , ϵ , ζ , η , θ , ι , κ , λ , μ ,

o. 石炭袋 γ と ϵ との間に有名な石炭袋がある。これは暗黒星霧様の物質で、遠い星を蔽うて居るものであらう。

p. 流星輻射點 本星座にあるもの、第一、七月中旬赤經 317° 、赤緯北 31° 、性質は速いもの。第二、八月中旬から、下旬にかけて起るもの、赤經 290° 、赤緯北 53° 、 α 附近で、性質は速いものである。

q. 主なる星の二

星名	光度	スペクトル	1933.0		固有運動		視線速度 V	視差 π	備考
			赤経	赤緯	μ	ρ			
δ Cyg.	3.0	A	19時42.9分	+44度58分	0.065	55	Km/Sec —20	0.027	μ 一年間に動く角距離, P 方向角
γ シ	2.3	F	20 19.8	+40 2	0.003	162	— 7.6	0.000	
α シ	1.3	A	20 39.1	+45 2	0.001	180	—	0.000	
ϵ シ	2.6	K	20 43.5	+33 43	0.483	48	—10.5	0.041	

r. 詩 歌

白鳥は 北十字架と 仰がれて 天の川原の たゞ中に見ゆ (大庭濱子)

鶺鴒の渡せる橋におく霜の白きを見れば夜ぞふけにける

天津星

銀漢倒し梁柱 天津架し九橋 橋邊砂散し玉 無し復緑波揺し

奚仲星

應し星人幾許 奚仲豈無し 列在し天津北 臨し河影自移

輦道星

天子遊嬉處 五星輦道通 萬古何須掃 旗影映河中

s. 神 話

希臘、羅馬の國民は「鳥」或は「白鳥」と呼んだ。羅馬神話によると、大神ユピテルが、美女レーダの許に通ふ化身と見た。又軍人マルスの子或はフェアトンの弟シグノスが天上に運ばれた姿であると。

この星座を鳥の形に見立てたのは、古代エウフラテスの國々でもさうであつたが、アラビヤでは「飛び行く鷲」或は「牝雞」とも呼んだ。 α のアラビヤ名はデネブで、「牝雞の尾」を意味するものである。(皇紀2593年2月26日)

故 中 村 要 氏 肖 像

昨1932年五月、花山天文臺の大ドーム内にて撮影されたるものの引き延ばし。

四つ切り版

價 1.00圓 送料12錢

東 亞 天 文 協 會